

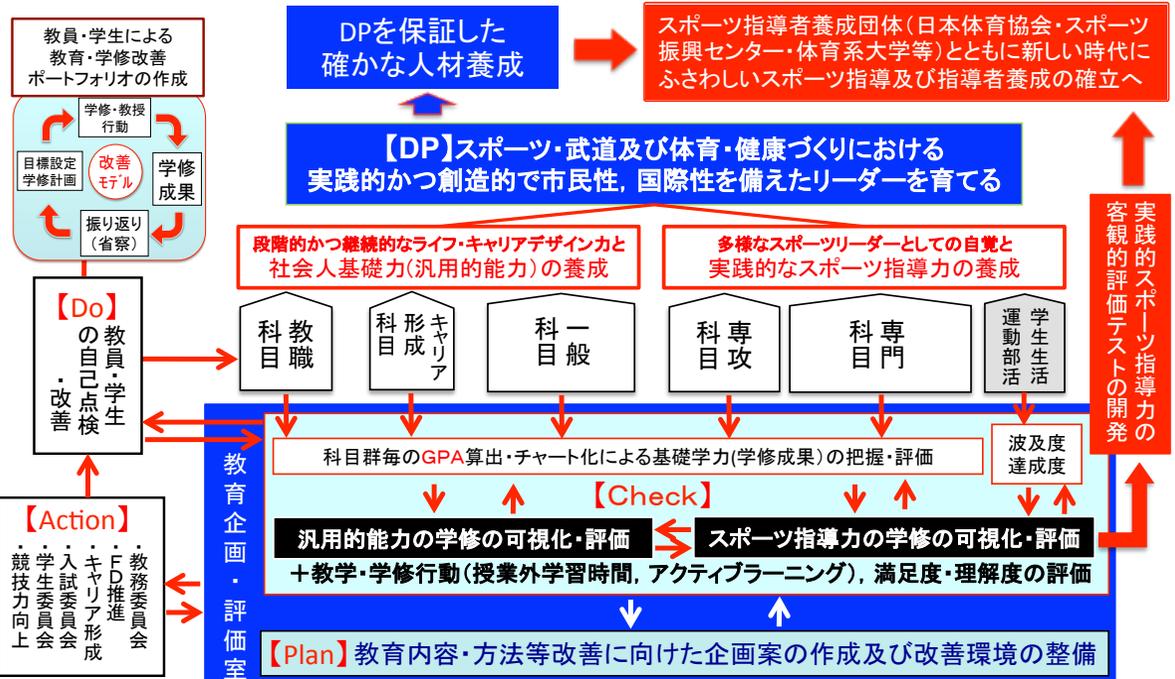
大学等名：鹿屋体育大学

テーマ：テーマV（卒業時における質保証の取組の強化）

本取組は、本学の教育ミッションである「スポーツ・武道及び体育・健康づくりにおける実践的かつ創造的で市民性、国際性を備えたリーダーを育てる」ために、「卒業時における質保証の取組の強化」を全学的に行うものである。特に、DPを担保する「多様なスポーツリーダーとしての自覚と実践的なスポーツ指導力の養成」と「段階的かつ継続的なライフ・キャリアデザイン力と社会人基礎力(汎用的能力)の養成」の状況を、学修行動や学修成果の可視化から確認し、継続的に教育改善が行える教学システムを確立することを目指している。

本取組では、以下の4つの可視化とそれらの振り返り・改善のポートフォリオ作成を通じ、本学のDPの実現に向けた、より高い教育の質保証達成を目指す。さらに、教育企画・評価室が柱となり、教育課程や学修行動・教育実践も可視化し、点検・評価することにより、体系的・組織的に教育・学修改善が行えるようにすることである。

- ①科目群毎のGPAの算出・チャート化による基礎学力(学修成果)の可視化
- ②標準化された「汎用的能力テスト(PROGテスト)」を柱とした学修成果の可視化
- ③本事業で開発する「プロフィール型テスト」によるスポーツ指導力の学修成果の可視化
- ④学生生活や運動部活動の実態、学修成果への波及度、競技活動の達成度の可視化



【事業の成果】	27年度 (実績値)	28年度 (目標値)	29年度 (目標値)	31年度 (目標値)
学生の授業外学修時間(1週間当たり)	4.0時間	5.0時間	6.0時間	8.0時間
卒業生追跡調査の実施率 【毎年800人を対象とする】 (調査回答者数/卒業生数)	0%	14.9%	13.1%	10.5%
学修到達度調査の実施率 (スポーツ指導力)	0%	50%	75%	100%



【効果・波及】

- ◆ 学生の学修成果や行動等の可視化とポートフォリオの作成により、教学PDCAサイクルを学生・教員が意識的に循環させ、教育改革を加速できる。
- ◆ 本事業で開発する「スポーツ指導力の客観的評価テスト」は、広く日本のスポーツ指導者養成団体や体育系大学における教養体育、教員養成、様々なスポーツ指導者の養成や再研修で活用できる。